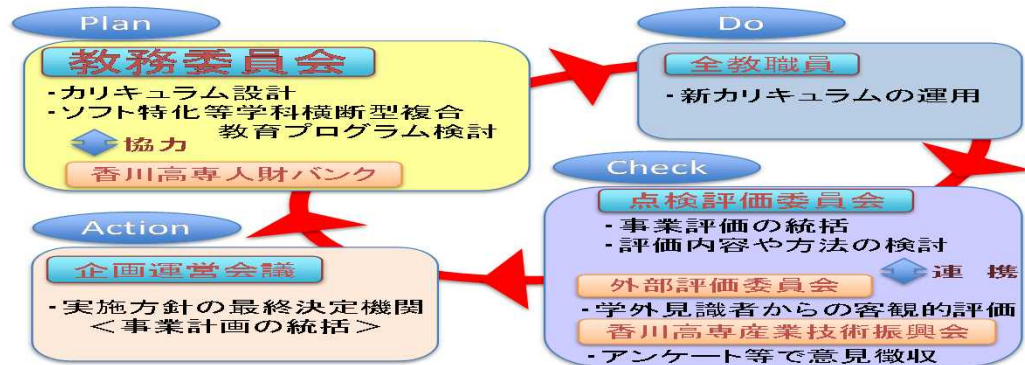




【取組の目的】

実力ある技術者育成のため、数学と物理をより充実する。高専の高大接続システムを十分に活用する。技術成熟時代に合った哲学が必要であり、リベラルアーツを高学年で深く学習する。

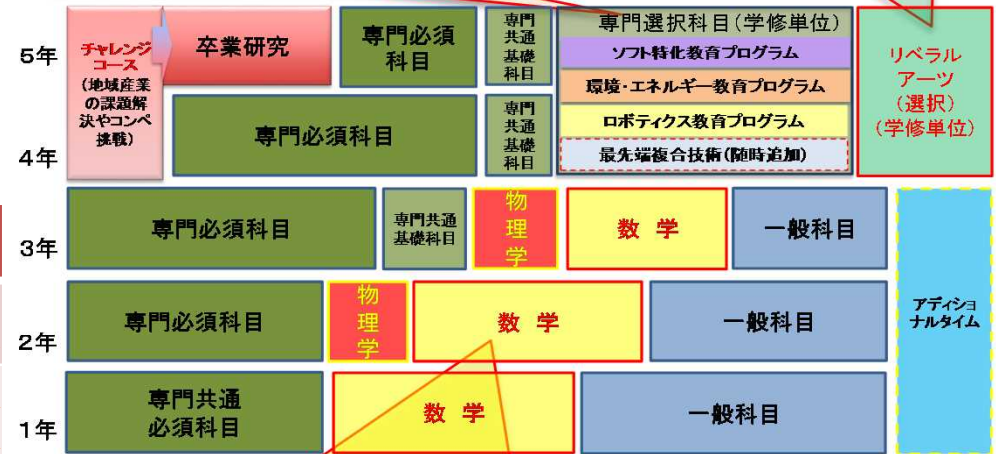
【実施体制】



【取り組み内容】

各学科の専門選択科目をモデルカリキュラムに沿って履修することで、最先端の複合技術に対応する学科横断型の複合教育プログラムを提供

国語や社会などの教養科目は高学年に移行してリベラルアーツを充実し、人間力豊かな技術者育成



クォータ制を導入し数学では各単元に集中して学習、1年生で微積を優先して学習させ、2年生から微積を用いた物理学を教授し物理学に対する深い理解を促す

【工程表】

	平成29年7月	平成29年10月	平成30年1月	平成30年4月
カリキュラム編成	低学年のカリキュラム編成	リベラルアーツの検討	複合教育プログラムの編成	
数学の新教育手法の試行的実施	単元ごとの教授方法への変更	新教育手法の試行的実施と課題の抽出	実質クォータ制の実施	
ソフト特化教育プログラムの試行的実施	選択科目の追加や学内制度の見直し	受講学生への説明など	試行的実施	

【成果指標】

- ①新カリキュラムの全科目において、PBL形式、アクティブラーニング、反転授業等の新たな教育手法を導入。
- ②地元企業(重機械メーカー等)が就職者に求める資格(機械設計技術者試験等)の取得者数の向上:
63名(H28年度)→140名(H30年度以降毎年度)

【第4期中期目標期間への展開(見込み)】

新カリキュラムにより実現する学科横断型の複合教育プログラムが、より広範囲な先端複合技術をカバーし、より有効に機能するように、材料化学系の新設を含めた学科改組について議論する。